

甲 第 号

伊藤真吾 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

論文審査の要旨及び担当者

| | | | |
|---------|----------|----|-------|
| | 委員長 | 教授 | 今村 知明 |
| 論文審査担当者 | 委員 | 教授 | 田中 康仁 |
| | 委員(指導教員) | 教授 | 福島 英賢 |

主論文

Factors Associated with EMS On-Scene Time and Its Regional Difference in Road Traffic Injuries: A Population-based Observational Study

交通外傷における救急隊の現場滞在時間に関連する要因とその地域差についての検討

Shingo Ito, Hideki Asai, Yasuyuki Kawai, Shunji Suto, Sachiko Ohta, Hidetada Fukushima

BMC Emerg Med. 2022 Sep 15;22(1):160. doi: 10.1186/s12873-022-00718-1.

論文審査の要旨

本研究は、救急隊の現場滞在時間を構成する要因について分析し、これが交通事故患者の予後改善に貢献し得るかどうかを検討したものである。交通外傷 19,141 症例を対象として解析した結果、救急隊の病院照会回数が現場滞在時間を構成する最大の要因であった。また高リスク受傷機転も影響していた。休日、夜間、高齢も現場時間の延長と関連していたが、その影響は小さかった。また JCS 30 以上の場合は現場滞在時間が約 2 分短縮していた。医療圏毎の地域間の差は最大 2 分間認められた。これらを考慮した救急活動は交通事故患者の転帰の改善に貢献しうることを説明したものである。

公聴会では、日本全国的にはこのような統計データはあるのかという質問に対して、大阪では同様のシステムが稼働しているが、国レベルではないのではという回答であった。また、滞在時間が長いのは選択肢が多くなるからではないかとの質問に対しては、それも大きな理由の 1 つであるとの回答であった。

本研究の結果は紹介システムをより良いものにすれば、現場滞在時間を大幅に短縮させることができる可能性を示す有用なものであり、今後本領域のさらなる発展に寄与するものと評価され、公聴会における質疑も適切であり参考論文と合わせて学位を授与するに相応しい研究と考える。

参 考 論 文

1. 救急隊が搬送実施基準外で重症外傷を当救命救急センターへ搬送決定する要因について： e-MATCH データを用いたデータセットの解析
伊藤真吾、浅井英樹、川井廉之、周藤俊治、山川祐子、大田祥子、福島英賢、日本救命医療学会雑誌 35 卷 Page7-13 (2021.12)
2. Venous-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation for Severe Heatstroke with Refractory Hemodynamic Failure
Fujita Masahiko. · Miyazaki Keita. · Horiguchi Momoko. · Yamamoto Koji. · Ito Shingo. · Fukushima Hidetada. Case Rep Acute Med 2021; 4: 76–79.
doi.org/10.1159/000517681

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに救急病態機能制御医学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和5年3月7日

学位審査委員長

公衆衛生学

教授 今村 知明

学位審査委員

運動器再建医学

教授 田中 康仁

学位審査委員(指導教員)

救急病態機能制御学

教授 福島 英賢